

特集
2

SDGsとジャパンビバレッジ ～2030年目標を設定～

ジャパンビバレッジは2018年にSDGsで取組むべき4つの目標を重点課題として決定し、活動しています。2020年度の活動の進捗を報告するとともに、2030年に向けての活動をご紹介します。



ジャパンビバレッジが重点的に取組むSDGs

8 働きがいも
経済成長も



目標8 働きがいも経済成長も

取組事項

- 柔軟な働き方の推進による生産性の向上
- 従業員の健康づくりを推進



2020年度活動報告

■テレワーク・オンライン会議システムの導入

2020年3月に本社企画部門・支社・支店管理職・監督職・業務担当にテレワークを一斉導入し、緊急事態宣言時のオフィスへの出勤を5割～7割削減へ取組みました。

また、オンライン会議システムを導入し、各種会議・研修・打合せに活用しました。

■ストレスチェック

コロナ禍で急激に働き方や生活様式が変わりストレスがかかりやすい状態を考慮し、ストレスチェックを通常年1回から年2回実施しました。

■人材育成

各役職に応じた新たな研修体制を構築しています。2020年度に新設した研修は、新任管理者研修、新任マネージャー研修、新卒フォロー研修(振返り研修)です。また、新卒の従業員を対象に「コーチャー制」を導入しました。

2030年に向けて

コロナ禍収束後もオンライン会議システムを継続活用し、必要に応じてFace to Faceの場を設けるなど臨機応変に対応していきます。

担当者の声 人材育成による「組織風土の醸成」

2020年の人事部は、様々な手法と工夫で活動した1年になりました。まずコロナ禍で、集合して入社式・研修が出来ず、各エリアに少人数で分かれ、オンラインで全国を繋いでの実施となりました。直接会うことができないことを補うため「振返り研修」を定期的に開催し入社後のフォロー体制を強化しました。また、新しい取組みとして何でも相談できる先輩を新人に配置する「コーチャー制」を導入しました。新人に寄り添い細かい気配りをする事で、職場の活性化およびエンゲージメント向上につながり、社内全体で育成の風土が醸成されているのを感じられた1年でした。2021年以降も人材育成体制をより進化させ、更なる組織風土の醸成を目指していきます。



人事部 新妻あずみ

12 つくる責任
つかう責任

目標12 つくる責任つかう責任

取組事項

- 資源の持続可能な管理
- 廃棄物の削減
- 環境教育提供による情報発信

2020年度活動報告

■ 飲料空容器再資源化

(詳細はP7・8・14に掲載)

■ リサイクル・プラザJBオンライン工場見学の開始

(詳細はP15に掲載)

13 気候変動に
具体的な対策を

目標13 気候変動に具体的な対策を

取組事項

- CO₂排出量の削減

2020年度活動報告

■ 2020年度CO₂排出量

オペレーション活動
(事業所・車輛・ガス・灯油)

19,657 t-CO₂
(2015年比**23.3%**減)

自動販売機・
マルチドリンクサーバー

156,929 t-CO₂
(2015年比**21.8%**減)

2030年に向けて

2030年までのCO₂削減目標を設定しました。

オペレーション活動
(事業所・車輛・ガス・灯油)

2015年比 **25%**削減

自動販売機・
マルチドリンクサーバー

2015年比 **20%**削減

14 海の豊かさを
守ろう

目標14 海の豊かさを守ろう

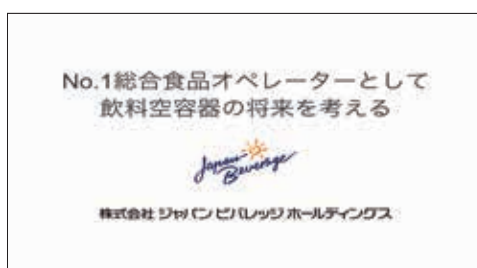
取組事項

- ペットボトルの資源循環の構築
- リサイクルボックス啓発
- ポイ捨て抑制

2020年度活動報告

■ ペットボトル水平循環の社内・社外啓発

お客様へペットボトルの水平循環・資源循環のご説明をしています。

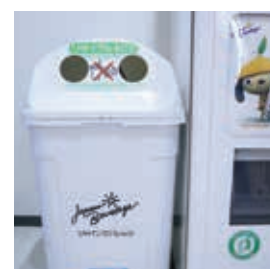


■ リサイクルボックスの啓発

各種メディアを通じたリサイクルボックス啓発活動及びリサイクルボックスステッカー運用による分別徹底を推進しています。



新聞への掲載



リサイクルボックスステッカー

担当者の声 お客様のSDGs活動を支援しています

お客様先を訪問した際、受付やポスターでSDGsを多く見かけようになりました。その際はその活動内容をお伺いし、今後のご提案に活かせるように心がけています。例えば、SDGsの目標「海の豊かさ」に関連した海洋プラスチック問題について、ペットボトルとどう向き合うべきか相談を受けたことがありました。その際は、ポイ捨てされなければきちんと資源循環が構築されていることをご説明し、ペットボトルの利用継続にご理解をいただいています。また、教育支援に力をいれているお客様には「トビタテ! 留学Japan 寄付型自動販売機」をご提案しました。

今後も、お客様のニーズとSDGsを融合させた幅広いご提案ができるように活動をしてまいります。

関東甲信越営業開発部 小川健次

